

小さなせっけんの物語

わたしは毎年正月休みに海外へ旅行していますが、1996年エジプトへ行ったとき、倉董事長と知り合いました。以後14年、わたしたち（もう一組の家族をくわえた三家族）は毎年この時期、誘い合わせて海外旅行へ行くようになりました。このとき倉董事長から聞く人生哲学や独自の経営理念はたいへん興味深く、人に対する思いやりの話などは本当に感心させられました。



倉董事長は以前、旅行に行ってもおみやげを買うことはありませんでしたが、今回はいつもと違って行く先々でおみやげ店をのぞき、イスラエルとヨルダンで死海産のせっけんを、ガイドからはしおりを買いました。これらは従業員へのおみやげだそうです。このように倉董事長は旅行の間、家族よりも従業員のことを気にかけており、その温かい思いやりに驚きました。

帰国の日、空港に向かうバスの中でのことです。段ボールに入れてバスの最後部に積んだせっけんのことが気になった倉董事長はビニール袋をいくつか繋いでひも状にし、それで段ボールを縛って補強しました。途中レストランで食事している間もそのことが気にな

っているようで、店からビニールのひもをもらって、車に戻るともう一度縛り直しました。そうやって空港につくまでの間ずっと、ちゃんと頑丈に補強できているかを気にしていました。

それを見ていて、わたしは倉董事長の細かなところまでこだわった態度に感心しました。幸運にもせっけんやしおりをもらうことのできた従業員のみなさんにひとこと、これらのおみやげは倉董事長の心のこもったおみやげです。大事にしてください。

旅行同行者 吳源盛

倉董事長への手紙 感謝をこめて

倉董事長殿

はじめまして。わたしは寧夏靈武トレーニングセンターで働く講師、孫鳳梅の息子で丁豪と申します。まず、このたび倉董事長がくださった薬とお金に対して深くお礼申し上げます。そして我が家が危機に瀕しているときのこうした援助に心から感動しています。

わたしの家はもともとそれなりに幸せに暮らしていました。しかし、ある日思ってもみなかった不幸がやってきました。2004年、わたしの血友病が発覚したのを皮切りに、2007年3月には借金で夜逃げした友達に代わって保証人になっていた父が起訴されました。同年4月には都市計画の煽りを受けて、それまで住んでいた家は取り壊しとなり、政府の命令で借家暮らしを余儀なくされました。2009年4月には母が銀行からお金を借りて家を買いましたが、これによって母は毎月給料から医療費、住宅ローン、生活費を支払わねばならず、それらを引くと手元にはいくらか残らなくなりました。母は経済面でのプレッシャーにくわえて仕事もきつづく、見る見るうちに憔悴して健康状態も悪くなりました。2009年8月、わたしが大学を受験、中国鉱業大学寧夏銀川分校に入学が決まりました。この学校の学費は安くありません。わたしは低所得家庭向けの学生ローンを申請し、さらに数人の親戚、知人からお金を借りて何とか入学することができました。入学後、わたしは働いて自分の学費を稼ごうと思いましたが、学校から許されず、母の負担を軽減することはできませんでした。しかたがないので、薬を飲むことをやめようと思いましたが、そのとき母に「薬はちゃんと飲みなさい。そしてしっかり勉強しなさい。わたしは少しも辛いから大丈夫」といわれました。



「いい人にはいい知らせがある」というのを聞いたことがあります。母はいい人です。家族のことを思いやり、仕事はまじめで、自分の学生に対しては気配りを忘れず、苦しい環境でも気持ちを強くもって頑張っています。わたしはそんな母のことを、「いい知らせがありますように」といつも願っていました。

去年の冬、母は江蘇省の宜興へ仕事に行き、今年1月はじめに帰ってきたのですが、わたしはそのときの、満面笑みを浮かべた母のことを忘れません。母は少し興奮気味に話し出しました。母は仕事で上海合璧電子公司へ行ったとのことで、そこで幸運にも倉董事長に会ったのです。倉董事長は我が家の状況を聞くと母を励ましてくれました。母もわずかな時間で倉董事長から多くのことを学びました。企業の経営理念、企業文化の育て方、自身の人生哲学や価値観、そして人生観などです。そして、これらを通して母は倉董事長が優しくて親しみやすく、善良で思いやりの心を持つ年配者だと思ったそうです。母が家に戻って一週間後に台湾から郵便が届きました。中には1本1000元以上もする薬のほか、わたし宛てに600元が入っていました。このお金は医療費ということで毎月送ってくれるとのことでした。

わたしは倉董事長のことを心から尊敬しています。金銭至上主義のこの世の中で倉董事長はまさに「泥にまみれても汚れず」という言葉が当てはまる素晴らしい人だと思えます。母の話では、倉董事長は同じ車に25年乗り、同じ家に30年リフォームもすることなく住み続け、その間毎年お金を公益事業や貧しい人のために使っているとのこと。今はみんな何より自分の楽しみを優先させる時代です。そんな時代に自分のことより見返りを期待しない人助けを喜ぶ人がいるなんて、倉董事長は本当に素晴らしい人物だと思います。

倉董事長は仏や菩薩ではありませんが、自らの力で世の中の困っている者を救ってくれました。本当にありがとうございます。この恩は一生忘れることはありません。そしていつの日か、この恩を何倍にもして返したいと思えます。

最後にわたしたち家族一同、心から倉董事長の健康と会社の益々の発展をお祈りいたします。

上海合璧電子電器有限公司

中國201-805上海市嘉定區安亭鎮安培路318號
TEL: +86-21-5950-5466

丁豪敬上 2010年3月4日

「禅」の真諦 合璧精神の源 本社見学レポート

今回、40周年を迎える合璧の台湾本社を訪問しました。これはわたしにとっては初めての海外渡航でしたが、会社の原点を見ることができて、とても光栄に思っています。行く前は期待でいっぱい、そして着いてからは董事長と陳總經理の「合璧は多元化と国際化を重視した会社だから、台湾、日本、タイ、中国どこの従業員も区別などありません。みんな『合璧人』なのです」という言葉を聞いて、「感激、ぬくもり、誇り」といった感情があふれてきました。

一週間の滞在を通して、わたしは「合璧人」という言葉の持つ意味の深さを感じました。そして「どうやって合璧人になるのか」といった方法や「どうして合璧人にならなければならないのか」という道理がよくわかりました。

本社でもみんな朝一番で我が社自慢の禅の5Sを熱心に行います。胡副理や陳錦鳳米さんなどの先輩も毎日出勤時間の1時間前には出勤して禅の5Sや仕事の準備をします。そして董事長は自らわたしと唐海忠さんを連れて草花を切ったり、事務所の5Sをしたりしながら仕事環境を清潔にすることの大切さを教えてくれました。また、禅の5Sと普通の整理整頓とは違うことも教えてくれました。禅の5Sはわたしたちの心を清め、正しい生活習慣を養い、個人の質を向上させるのです。

禅の5Sは社内の職位に関係なくみんなでいっしょに行います。これは「同心、同歩、同調（心をついにしてともに歩む）」の考え方で

台北合璧の従業員と記念撮影をする二人です。このため三十年を越えたトイレや階段、机、会議机などが依然清潔を保っています。これは一人では成し得ないことで、従業員全部が一体となってこそできることだと思いました。

そして「関心、關懷、關照（気配りと思いやりをもって接する）」についてはさらに深く感じるものがありました。というのは本社ではこの活動を、心を込めて行っているのが実感できたからです。わたしは董事長がどれほど従業員のことを思い、どれだけこの活動を徹底させようとしているか、また董事長が強調する「熱意」が60点を80点に引き上げ、さらには90点にできることがわかりました。董事長はこの10ヶ月の間に少なくとも4千回以上、直接または間接的に従業員に対して気配りと思いやりで接していると思います。

「感謝報恩、回饋社会（感謝の心と社会への還元）」は我が社の経営理念の中でも最高位に位置するものです。わたしは今回本社で最年長の従業員に会う機会がありました。彼の名は王槐堂、90歳です。王さんは合璧で10年働いています。が、実はさらにその10年前から董事長が生活の面倒を見てきました。

江蘇省宣城出身の王さんと同じ江蘇省揚州出身のわたしは話が合いました。その中で王さんは董事長のことを「愚公」という言葉で呼んでいました。そのあと、わたしは王さんの家に行きました。すると、王さんは今年

2月に董事長がお金を送ってくれたときの振込み用紙を見せてくれました。この20年、毎月こうした振込みがあるそうです。王さんはそのお返しに毎日仏様に線香を上げて董事長のことを祈っているといっていました。あとで事務所に戻ってこの話をすると、董事長の回りにはこうした話がいくつもあると聞きました。

このあと董事長の家に行っただけですが、本当に驚きました。董事長の家は30年以上にわたって内装工事もししていません。木の床はきしみ、家具は旧式、室内装飾は古びています。正直いってこれが企業経営で成功を収めた人物の住まいかと思いません。しかし、同時に董事長は毎月40人以上の人たちを経済的に援助する慈善家であることも思い出しました。そして、利益を上げることが最終目標ではない、感謝と恩返し、社会への還元こそわたしたちが本当にやらなければならないことだという董事長の経営理念そのものを見たような気がしました。このとき、わたしの驚きはいつの間にか誇りへと変わっていました。

本社訪問の興奮はまだまだ収まりません。しかし、ひとつだけいっておきたいことがあります。わたしは今、合璧人としての誇りを実感しています。わたしたちには偉大な一家の長（董事長）がいて、偉大な目標と社会に対する責任感があります。それを共有するわたしたちは温かい大家族の中にいるようなものです。

だからこそ、こんなに多くの榮譽が得られました。そしてお客様の信頼が得られました。そしてこんなに多くの収益を上げることができました。そして40年間にわたって発展を続けてきました。わたしたちは心をついにしてともに歩んでいかなければなりません。お互い気配りと思いやりをもって接しなければなりません。感謝の心をもって社会に還元していかなければなりません。

上海合璧生技課主任 馬広誠

合璧は我等温もりの家；我は合璧を愛し、合璧は我を愛する；關心關懷關照 同心同歩同調！



台北合璧の従業員と記念撮影をする二人



王老さん、馬広誠さん、唐海忠さんが3人で記念撮影

